

ホーリーの祝祭——炎と色彩

ガリマ・ボーワンカー

冬の寒さが春の穏やかな暖かさに道を譲る時、自然は無数の色彩で爆発します。木々の裸の枝を飾る若葉の柔らかい緑から、あらゆる色合いのつぼみの開花まで、鳥たちの明るいさえずりから、景色を吹き抜ける芳しいそよ風まで——目が自然の素晴らしい美しさに見とれる時、心ははじけるように喜びの歌を歌いだし、足は身近で掛け替えのない愛すべき人たちと踊ります。

ホーリーは、リトゥラージ・ヴァサント、「季節の王様」、すなわち春のお祝いです。それはヴァサント・ウツウサヴ、「春の祝祭」とも呼ばれ、インド中で熱狂と共に祝われるのが見られます。この2日間の祝祭は、グレゴリオ暦の2月から3月に当たる、ヒンズー教の太陰暦のパールグンの月の満月の夜から始まります。

パールグンの満月の夜はホーリー・プールニマーとして知られています。それはホーリカー・ダハン(文字通りの意味は、ホーリカーの燃焼)の夜で、女性の悪魔のホーリカーが焼死したと伝えられる時です。数々のプラーナで語られるように、これは信奉者の揺るぎない献身と信仰が、神の神聖なる保護をいかに引き寄せるかの、そして悪に対する善の勝利、不純の消滅、そして信仰心の称賛の物語です。

高慢で強力な魔王ヒラニヤカシャプは、彼一人だけを崇拜するようにすべての家来に命じました。ヴィシュヌ神の熱心な信奉者であった彼の幼い息子、プラフラードゥは、父親に

従うことを拒否しました。ヒラニヤカシャプは息子の反抗に激怒し、いろいろな方法で彼を殺害しようとしていました。しかし、毎回プラフラードゥは彼の最愛のヴィシュヌ神の恩恵で救われました。

ついに、ヒラニヤカシャプは火葬用のまきの山を作るよう命じました。彼の邪悪な妹、ホーリカーは、それを着る者が火で焼かれるのを防ぐ魔法のマントを持っていました。王の命令で、ホーリカーはマントを自らに巻き付け、まきの山の上に座り、幼いプラフラードゥを彼女の膝の上に乗せました。まきの山が点火されました。プラフラードゥはヴィシュヌ神に熱烈に祈りました。

炎がどんどん高くなるにつれて、出席を命じられた人々は恐怖におののきながら燃焼を見守りました。炎が収まると、誰もがプラフラードゥが無傷であることを見て驚きました。しかし、ホーリカーは焼死しました。一陣の風が女性の悪魔の周りからマントを吹き飛ばし、プラフラードゥの周りに巻き付けていたのでした！

ホーリカー・ダハンの夜に、人々は選定した場所を掃除し清めた後に、近所にアラーヴ、たき火を作ります。彼らはマントラを唱え、ココナツ、花、ターメリック、米や他の穀物をささげます。たき火は、あらゆる悪の力を浄化し消滅させることを象徴しています。

ホーリカー・ダハンの翌日であるドゥーリ・ヴァンダナーは、自然の鮮やかな色合いを表したさまざまな色で祝福されます。ドゥーリ・ヴァンダナーという言葉はサンスクリット語でもヒンディー語でもあります。ドゥーリは「ほこり」または「土」という意味、そしてヴァンダナーは「崇拝」という意味です。ドゥーリ・ヴァンダナーは、豊作で私たちに祝福してくれる母なる大地の崇拝です。それは母なる大地の豊かな恵みを祝う日です。

さまざまな色で「ホーリーを楽しむ」という喜びに満ちた伝統は、クリシュナ神の生涯についての教典、『シュリーマッド・バーガヴァタム』の中の物語に端を発したものです。この物語の中で、クリシュナ神は彼の最愛の信奉者であるラーダーやその他のゴープー、乳搾りの女性たちと、グラールという赤やピンクの粉を互いの顔に塗ったり、浴びせ合ったりして遊びました。今日に至るまで、最も喜びに満ち、手の込んだホーリーの行事は、クリシュナ神の生誕の地であるマトゥラーと、幼少期を過ごしたヴリンダーヴァンで行われます。そこでは、クリシュナとラーダーにささげられた主要な寺院それぞれで、違う日に人々が集まるため、ホーリーが約1週間続きます。何千人ものバクタたちが、きらめくさまざまな色の粉で楽しむためにそれらの寺院に集まり、民族舞踊を踊り、クリシュナ神と彼を敬慕するゴープーたちのリーラー、「戯れ」の歌を歌います。祝祭を楽しむ人々は、さまざまな色にまみれることは神の祝福を受けることだと考えています。

この遊び心がドゥーリ・ヴァンダナーにはあふれています。夜が明けると、人々はホーリーを楽しむためにワクワクして家や道、あるいは近くの野原に集まります。色が目立つように新しい白い服を着て、多彩な模様の万華鏡へと服を変貌させるのが伝統です。しかし、最近では、人々は自分の好きなどんな服でも楽しめます。

「ホーリーだ！ ホーリーだ！ 腹を立てないで、これはホーリーなのだから！」という掛け声と共に、互いにグラールを浴びせ合い、色水を掛け合います。この掛け声はこの祝日の精神を表しています。たとえ見知らぬ人が彼らと一緒にホーリーを楽しんだとしても、誰も怒れないというのが暗黙のルールです。これは踊って歌って、自由に楽しんで笑い、陽気な軽い冗談の日だから、すべての敵意と悪意が追い出される時だからです。空気そのものが華々しい色——ピンク、赤、オレンジ、黄、緑、青、そして紫色——で活気に満ちています。しばらくすると全員の顔が他の人と見分けがつかなくなります。すべての人、すべての物を包みこむ純粋な楽しみと、熱狂を伝える燃えるように輝く瞳と喜びに満ちた笑顔を除いては。

インドの多くの地域では、ドゥーリ・ヴァンダナーのお祝いはさまざまな色で楽しんだ後に終わります。人々は自宅に戻り、シャワーを浴びて新しい服に着替えて、腰を下ろし、家族や友人と共に特別なごちそうを楽しみます。しかし、北インドでは、お祝いは夜になっても続きます。家でのごちそうの後、人々は家族や友人を訪ね、デザートやお菓子を分かち合い、踊ったり歌ったり、互いに一緒に過ごすことを大いに楽しめます。

ホーリーの物語は、現代のハリウッド映画に描かれたこの祝祭に関する何百もの物語と歌に言及せずには完成しないでしょう！ ホーリーを口実に、数え切れないほどのヒーローがヒロインに愛を表現する絶好の瞬間を見いだして、歌と踊りで求愛してきました。かつて不倶(ふぐ)戴天だった敵同士が、過去のことは水に流しお互いを許して抱き合う時、同時に観客は一斉に安堵(あんど)のため息をつき、そのような時であるホーリーの日には、多くの家族の確執が解決されてきました。厳格な父親たちは、娘が運命の人と結婚することやその他もろもろのことに同意するように、ホーリーの時に説得されます。次のように尋ねる人さえ、いるかもしれません。もしホーリーの祝祭が存在しなかったら、ハリウッドの作家や監督は一体どうやってこれらの劇的な対立をすべて解決するのだろうか、と。まあ、それは私たちがあれこれ思い巡らさなくてもいいことです！

私はこの記事を書くのがとても楽しいので、ホーリーの栄光を延々とたたえ続けたいほどです。しかしながら、読者の皆さんのことを考えて、この祝日の本質を分かち合うことを、私がインスピレーションを受けて書いた詩で、締めくくることにします。

たくさんの庭園の美しさが増し、
さまざまな色が空中で渦巻いている。
愛、真心、そして血縁——
それらの表情が輝く。

それらの甘い香りの中で

すべての敵意は消える。

それらの神聖な炎で

すべての心の中のランプは輝く。

なぜこのような気持ちをこの日のためだけに

取っておくのだろうか？

あなたの身体や魂を、

それらのきらめいている雨に

毎日すっきりと浸してみたらどうだろう？

